



コンピエーニュ城の庭でジャンプ！（コンピエーニュ・白河協会のバンサン・ルーセルさん提供）

人に優しくすることの大切さを学んだ

# かけがえのない7日間

7日間は、日常生活の中ではすぐに流れてしまう時間。でも、生涯忘れることのできない、かけがえのない時間もきつとあるはずだ。

「平成24年度中学生国際交流事業」では、市内の中学生23人が派遣生としてフランスを訪問、7日間で大きな成長を遂げました。この事業を支える人々にスポットを当てます。今月号では、派遣生の体験と、この事業を支える人々にスポットを当てます。

## 25年の友好が示すもの

今年、本市とフランス・コンピエーニュ市が姉妹都市として交流を始めてから25周年の節目の年です。これまで13回にわたり、市内の中学生を同市に派遣していますが、それは、ホームステイの受け入れがあつてこそ成り立つもの。継続するこの事業が、強いきずなで結ばれた友好の証です。

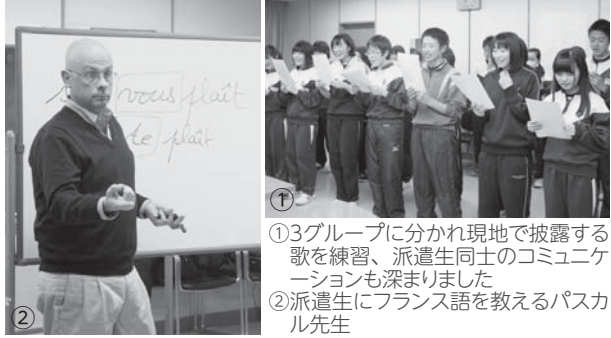
## 旅の始まり

派遣事業に参加するきっかけは様々です。親に勧められた。姉が行ってきたから。自分を変えたい。興味があった

など。こうして、派遣生たちの国際交流の扉は開かれました。

## 心構えを身に付ける

旅立ちには準備が必要です。旅の心構えを身に付けるために、派遣生たちは3回の研修を受けました。今回から新たな試みとして、フランス人による語学講座を取り入れました。直接耳にするのももちろん初めて。どの派遣生も、あつけにとられていました。しかし、順応が早い年代。少しずつ、確実にフランス語になじんでいきます。現地に赴く前



①3グループに分かれ現地で披露する歌を練習、派遣生同士のコミュニケーションも深まりました  
②派遣生にフランス語を教えるパ斯卡ル先生

に、生のフランス語を体験できたことは、大きな財産になりました。

## 国際交流事業は、心の交流を はぐくむ

Interview 01

国際間の交流として、政府の交流、経済交流も大事ですが、実は市民レベルの心の交流が最も大切だと思います。例えば、国際間のあつれきがあつても、個人同士の深い信頼があると、断絶には至りません。白河市民とフランス・コンピエーニュ市民との間に根付いた友好関係がこれを立証しています。

中学生は多感で何でも吸収できる時期です。3日ほどですが、ホームステイでは言葉も習慣も違うフランスという国の家族の一員になって、普段の生活を体験します。生徒たちは、フランスの文化にあこがれたり、語学の勉強に目覚めたり、逆に日本の良さを再確認したりと、大きな収穫を得たことを報告してくれています。

key person  
市国際交流協会会長  
齋藤 敬さん  
Saito Takashi



## 旅立ち。そしてサプライズ

3月23日、いよいよ旅立ちのときを迎えました。初めての海外と親元を離れることへの不安、フランス体験への期待。派遣生たちの心の中には、様々な思いが駆け巡っていました。白河を離れ、成田国際空港に到着。そして、23人の派遣生を乗せた飛行機は日本を飛び立ちました。

機内で12時間半の時を過ごし、パリのシャルル・ド・ゴール国際空港に到着。まず、フランスの時差は8時間。空港のロビーで腕時計の時間を合



到着を歓迎してくれたコンピエーニュ・白河協会の皆さん

わせていると、そこでサプライズが。コンピエーニュ・白河協会の皆さんが、日本語で「ようこそ」と書いたパネルを持ち出迎えてくれたのです。思いもよらない歓迎に、派遣生たちの不安は少し和らいだように見えました。こうして現地での交流が始まりました。

## 異文化での体験は、何事にも立ち向かう強さが身に付く

Interview 02

外国人と接することで、たくさんのことを学ぶことができます。まずそれまで想像もできなかった外国の文化。それに日本から海外に行けば、日本のことを説明できなくてはなりません。自分の国のことは案外、聞かれると答えに詰まるものです。それから自分自身を理解するチャンスに恵まれます。異文化に身を置いたとき、どう対応するかは自分自身の責任。思い掛けず大胆だったり、逆に縮こまってしまう自分を見つけるかもしれない。若いうちの国際交流体験は、その後社会に出て経験する多くのことに、ひるまず立ち向かうことができる強さを与えてくれると思います。どんな異文化を体験してください。



key person  
第2・3回研修会  
フランス語講座講師  
ノワロー・ジョン＝パスカルさん  
Jean-Pascal NOIRAULT  
郡山市在住。フランスワイン直輸入販売店(有)ワークステーション(店舗名J.P.M.)を経営



## 報告書の一部を紹介！ Vol. 1

派遣生がつづった報告書の一部を、グループごとに紹介します。(派遣生Aグループ)

- 我妻美佳さん** (東中) ホームステイで積極性が身に付きました。感謝しています。
- 荒井寿美さん** (中央中) 笑顔と自己表現力は、とても大切だと感じました。
- 今井きららさん** (東北中) 生活や文化が違っても、人の「優しさ」は世界共通だと感じました。
- 薄井彩寧さん** (中央中) コンピエーニュのまちなみはとてもきれいでした。
- 喜屋武咲月さん** (中央中) コンピエーニュに大切な友達が出来ました。また、日本の良さを再発見しました。
- 工藤 元さん** (表郷中) 将来、世界の様々な国に行き、その文化に触れたいくなりました。
- 小峰光由さん** (白二中) フランスは驚きの連続。貴重な体験ができました。

Interview 04

思い出とともに、親への感謝の気持ちを忘れずに

派遣生全員を笑顔で帰国させることが私の使命でした。それは「団長」という大役を受けたときから始まりました。重責は感じましたが、彼らと過ごした7日間は、思い出に残る素敵な時間となりました。

この旅の友だった23人の生徒たち。今はそれぞれ違う学校ですが、今後、高校やほかの場面で再開することもあるでしょう。そのときは、旅の思い出を語り合ってほしいと思います。そして、この経験を生かし、様々な分野で活躍してくれると信じています。それから、このチャンスを与えてくれた親への感謝の気持ちを決して忘れないでください。



key person

平成24年度中学生国際交流事業派遣団団長  
(市国際交流協会理事)  
矢吹篤史さん  
Yabuki Atsushi

- ①ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎
- ②ホストファミリーとの対面式(市議会)
- ③ウェルカムパーティーで歌を披露
- ④ピエール・ダリ高校で日本語を学んでいる生徒と、折り紙や習字、歌で交流
- ⑤コンピエーニュ城を見学
- ⑥ホストファミリーとの別れ
- ⑦壮大なヴェルサイユ宮殿
- ⑧興奮も最高潮、エッフェル塔
- ⑨サモトラケのニケ像の前で(ルーブル美術館)
- ⑩建設850年を迎えたノートルダム寺院
- ⑪モンマルトルの丘にそびえるサクレクール寺院
- ⑫セーヌ川から眺める夕暮れのパリのまち並み



パリに向かう途中では、ゴッホゆかりの地オーヴェル・シュル・オワーズやヴェルサイユ宮殿を見学。パリに着き、高台から望んだエッフェル塔は、まさに感動の一言でした。27日は地下鉄での移動です。研修で学んだ、気を引き締める「行動」を心掛けたが、オルセー美術館、ルーブル美術館を巡りました。教科書で

芸術の都パリ。そして帰国  
重な体験になりました。彼らは「人に優しくすることの大切さ」を、異国の地で、身をもって学んだのでした。

しか見たことのない芸術の数々を目の当たりにし、派遣生たちは終始興奮していました。28日、いよいよフランスの最終日となりました。まず訪れたのはノートルダム寺院。今年建設から850年を迎えた記念の年です。派遣生たちは、設置されたばかりの新しい鐘の音色に耳を傾けました。続いてモンマルトルの丘にあるサクレクール寺院を見学、セーヌ川クルーズでは、夕暮れ時のパリの美しいまち並みを船上から眺めました。そして空港へ。多くを学んだフランスに別れを告げ、帰国の途につきました。



5月10日の帰国報告会で再会を喜ぶ派遣生たち。各自の体験を発表しました

伝えることで成長する  
この7日間の体験は、派遣生たちの将来につながる糧となることでしょう。そして、フランスで「何を感じ、何を思ったか」を自分の言葉で伝えられるようになったとき、彼らはさらに成長するのです。



空港からバスに揺られること1時間半。コンピエーニュ市に到着します。中世のたたずまいを残すまち並みは、ここがフランスであることを改めて実感させると同時に、胸の高鳴りを感じさせました。ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎に入り、お世話になるホストファミリーと対面を果たします。そして期待と不安の中、ホームステイが始まりました。各ホストファミリーと過ごす3日間。2日目にはウェルカムパーティーに参加、3日目にはピエール・ダリ高校生との交流やコンピエーニュ城見学など、楽しい時間を過ごしました。3月26日、別れの朝が訪れます。伝えたい感謝の気持ちを、日本語ならもつと伝えられるのに。もどかしさと別れの悲しさを胸に、ホストファミリーに見送られながらコンピエーニュ市を後にしました。派遣生にとってこの3日間のホームステイは、とても貴



コンピエーニュの地で学んだこと

異なる国・文化・生活を体験する彼らの意欲と好奇心をたたえたい  
毎年、白河市の中学生が訪問してくれることをとても嬉しく思っています。私たちは、ここで、特に彼らがホームステイをする家族と過ごす限られた時間の中で、フランス人の普段の生活などを通して、様々な発見ができるよう努めています。そして何より、子どもたちがフランスへ行くことに賛成し、送り出してくれるご両親に心から感謝します。訪問する中学生たちのほとんどが、今回初めての海外旅行だと思えます。そんな彼らにとってここでの生活は、今までとはまったく違うものなのでしょう。別の国・文化・生活を体験しようとするそんな彼らの意欲と好奇心を、私は心から褒めたたえます。毎年そうですが私たちホストファミリーは、彼らともう少し長く一緒にいることができないかと思っています。2014年派遣の中学生たち、会えるのを楽しみにしています。そして、今まで来てくれた中学生たちもぜひ、また来てください。白河市との交流は、今年で25年目です。人間の年として見れば、まだまだ若い。これからももっともっと、たくさんのかたちと一緒にやっていけると信じています。

key person

コンピエーニュ・白河協会  
バンサン・ルーセルさん  
Vincent Roussel



報告書の一部を紹介! Vol. 3 (派遣生Cグループ)

- 富田竜平さん** (白河南中) フランスで見て、聞いて、感じたことをこれからの人生の新たなきっかけにします。
- 清川菜緒さん** (白二中) ホームステイで、人に優しく接することの大切さを学びました。
- 縄田美涼さん** (中央中) フランスの感動的な景色が、今でも心に残っています。
- 林 紗良さん** (白二中) いつかまたフランスに行って、ホストファミリーに会いたいです。
- 遠見千海さん** (中央中) ホストファミリーとの時間は楽しくてあっという間で、別れがつかないです。
- 堀川紗瑛さん** (中央中) 「ありがとう」の言葉には、感謝の気持ちを込めることが大切だと感じました。
- 増子優花さん** (中央中) フランスでお世話になった人たちに、自分から会いに行きたいです。
- 渡邊千紗季さん** (中央中) ホストファミリーは、本当に心の温かい皆さんでした。

報告書の一部を紹介! Vol. 2 (派遣生Bグループ)

- 齋藤憲翔さん** (五箇中) たくさんのお出会いは、すべて良い経験になりました。
- 志田智哉さん** (中央中) 日本とフランスの比較で、多くの発見がありました。
- 白井美咲さん** (中央中) フランスで、適応力とたくさんのお出合いを得ることができました。
- 杉本安衣香さん** (白河南中) たくさんのお友達ができました。大人になったらまた行きたいです。
- 鈴木夏奈子さん** (東北中) 日本とフランス、それぞれが持つ文化の素晴らしさを実感しました。
- 鈴木佑奈さん** (中央中) 様々な文化に触れることができました。将来は国際的な人になりたいです。
- 鈴木伶奈さん** (中央中) ホームステイは楽しく、学ぶこともたくさんありました。
- 田家里那子さん** (中央中) 楽しかったホームステイ。3日間があっという間に過ぎました。